

---

# 獣のように吼える

内海秀嗣

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

獣のように吼える

### 【Zマーク】

Z2700A

### 【作者名】

内海秀嗣

### 【あらすじ】

同じバスケット部に所属する篤史と俊。そして普段から仲のいい由紀といつマネージャー。その由紀に一人とも恋心を抱いていた。そのまま俊が由紀と付き合いたいといつ告白に篤史の内心をつかうたえる。

高校三年生でバスケットボール部に所属していて美男で頭も良い。

そのバスケ部でもエース的な存在の2人。

そんな二人、狭川俊さがわすべると駒澤篤史こまざわあつしの一生に一度の夏の物語。

夏の地区予選に向け合宿に入るバスケ部一時は、山奥にある廃校を利用することになった。在校期間は一週間で近くに小さな町があるだけ。

「なあなあ篤史！廃校に泊まるってドキドキしねェ？」と俊は言つ。

「ああ、そうだよな。幽霊とかでるかもな。ちょっと怖いなあ」それには篤史は返す。

「じゃあ、幽霊が出てきたら私を守つてね一人とも！」

そう言つてきたのはマネジャーの西山由紀にじやまゆき。

「なあにいつてんだ！？お前は後輩マネージャーの一人と三人で寝るんだろう？なあ俊？」と篤史。

「おうよー俺達は男の会話つてもんがあるのよーお前の入るスペー  
ス無しー」と俊

「いや、意味わかんない。それにそっちじゃ覗きたかしないでよー。」と由紀は叫ぶ。

「はつはつはー！お前なんか覗いても価値がないつづーのー！」と篤史。

「何それどう書ひ意味！？」と由紀は半分キレ氣味で叫ぶ。

普段から気が合ひ、無一の親友の一人とマネージャーの由紀。ふざけた会話を廃校に向かう道を歩きながらしゃべっている一人。

「おいー！お前らー！俺達最後の大会に向けての合宿なんだぞ？遊び気分でいるんじやねエー！しかもお前らはチームの中心的な……ぶつぶつ

バスケ部のキャプテンに一喝を入れられた一人。しかもキャプテンはその後もぶつぶつと呟く。  
そして、廃校に到着した。

「一年はこの教室ーー一年は一個向ひーー三年はこじだー荷物を置いたら寝るところの畳を敷くんだー！」

全員が協力し畳を敷いていき、三十分ぐらいで終わつた。

「早速だが練習に入るー全員体育館に集合。」

全員が体育館に集合し限界を超える練習が始まつた。

「はあーはあー！ダメもつ限界死ぬーー」と篤史。

「がんばれ篤史いーこれが終わつた後は楽園だぞー」と俊。

練習の後半になると流石の一人も弱音を吐いていた。  
そこには由紀がおちよくつた言葉をかける。

「あれ～？一入共もしかしてへばつたとかあ～根性無いなあ～」

「ふやけるなあ。はあはあ俺と俊だけ他の奴の倍じやねエか～。」  
と篤史。

「キャプテンもやつてゐるよ？それに他の三年6人もねえ？」と由  
紀も叫ぶ。

「へたお～負けるな篤史にはあ、は。」と俊。

「おつよー」と篤史も返す。

そう言つてまたダッシュをし始めた。

「由紀ーそろあがつていいぞお～篤史と俊にこいつとけー！  
遠くからキャプテンが叫ぶ。

「あー由紀がいねエ！先に帰りやがつたー！」篤史が叫ぶ。

「なあに？ふやけやがつてえー！俺達はダッシュしてたんだ  
ぞおーーー」と俊も叫ぶ。

「でもダメだ。もう怒る氣力がね」だががつくりする俊。

「お？遅かったな二人とも皆風呂に入っちゃったぞ？」

「練習でへろへろになつた一人にキャプテンの言葉がそれか？」

「ああそだ！風呂に入つて来い！」

二人は風呂に向かうが怒りの矛先はキャプテンではなく由紀に行つていた。

体を洗い風呂に浸かる一人。

「ああ！くそお！由紀の奴俺らだけ練習居残りさせやがつた！篤史俺、一週間耐えられないあかもしけねえ！」俊は怒りをあらわにする。

「同感だぜ相棒！」この状況をどうにかしねえとヤバイぜ……抜け出すか？」と篤史が提案。

「ああ、そうだな田舎とはいえ町はある！」それに俊も乗ってきた。

「地区予選前の合宿なのに抜け出す相談？情けない二人だね！」

壁の向こう側から由紀の声がした。

「俊う。壁の向こう側は女湯だぜH？」

「相棒！まさか俺達…………同じ事を考えてるんじやないですか？」

「Theet, theet!...」一人で声が合われる。

行くぜ樂園の壁の向こう側にと、威勢よく壁につかまりよじ登る一人。だが顔を出すと待つてたかの」とく、由紀が桶を投げてきた。クリーンヒット! 一人の顔面に桶が当たる。しかも、由紀はもつすでにパジャマ姿であった。

「くつそー損した!」叫ぶ俊。

「ふつ! 馬鹿め! 私があんたら一人に隙を見せると思つか! ?」由紀も叫ぶ。

そんな感じで一日目が過ぎ、同じよう三日がたった。  
そして四日目の昼食の休憩時間。

「篤史。ちょっと相談があるんだけどいいかな?」

「オウ! いいぜ」

そういって二人は、人気の無い所へ行った。

「実はな、篤史。俺も、由紀の」とか、好きになっちゃったみたいなんだ。」

篤史は内心ドキッとした。実は篤史も由紀に同じ感情を抱いていたからだ。

「相談でそれか？冗談だろ？あんな暴力的な女なんか」

篤史は本気だとわからつつも冗談にして自分の気持ちを隠した。

「俺はふざけていつてるんじゃない！！お前だつてわかるだろ？本当の由紀の性格。お前が怪我した時、俺が怪我した時！由紀は丁寧にやさしく心配してくれた。俺にとつて！あんなに良い奴はない。俺は宣言しておく。俺は由紀のことが好きだ。由紀と付き合いたい。…………悪い。相談するつもりがこんなになつて。」

篤史は俊の言葉に圧倒されて黙つてしまつた。そうして居ずらくなつたのか、俊は学校に戻つてしまつた。篤史に苦悩の日々が始まつた。

実は夏合宿の三日目に練習試合があつて、そこでは絶妙のコンビと言われた篤史と俊の仲がしつくりいかなくなつた。バスケのプレーも合宿の生活もでもそつだつた。バスケはチームプレーが大切である。俊を選ぶか由紀を選ぶか。篤史はそれを考え眠れなかつた。

考えに考えた末に、結局篤史は、今の自分には仲間のほうが大切だと判断した。由紀なんか俊の奴にくれてやるのだと、篤史は自分に言い聞かせた。

篤史は、由紀に対して急に無愛想になつた。顔を合わせても、わざとそっぽを向くようになつた。

夏の合宿最後の日。キャプテンが話しかけてきた。

「篤史。由紀が体育館裏で待つていて、相談があるそつだ。俊は今

練習をしている。何があつたか知らないけど、最近のお前らは妙におかしい。すつきりとして地区予選に望んでくれ。」

「……わかった。」

由紀がキャプテンを通していった。用があるなら俺のところへ来ればいいと思ったが、もし現実にここにくれば、誰かをとうして俊に聞こえるだろう。そうなれば、これまでの自分の苦心は水の泡になってしまう。篤史は行かないわけにはいかなかつた。

行つてみると由紀は一人で立っていた由紀の相談と言つのは、やはり俊のことで、俊が付き合つてくれと言つてくるのだけど、どうすればいいかと言つことだつた。

「そんなこと自分で判断しろ！俊が嫌なら嫌と言えばいいじゃないか！」

ぶつきあひまづに答えた。

「違うのー！俊が嫌と言つわけじゃなくて、俊じゃなくて、好きな人が居るの。」

「じゃあ、その好きな人に相談すればいいじゃないか！」

「だつて、篤史は俊の親友で……」

篤史は頭にかつと血が昇つた。

「俺は俊と長い付き合いだけど俊の全部がわかるわけじゃ無いんだよー… 現に俊が由紀のことを好きということは解らなかつたし。」

…俺なんかより、その好きな人に相談しな」

「だから、だからその好きな人に相談してんのよ…ばかあ！」

篠史は耳を疑つた。けれども由紀は何も言わずに、大きい目でまつすぐ篠史を見つめていた。篠史は体が震えてきた。えらいことになつたと思った。実際、篠史はチラッと恐怖のよつたものを感じた。

「馬鹿。そんなこと言ひなよ。」

「なんで？…ビリして？……………ビリして言ひちやいけないのよー！」

「いけないんだ。ビリしてもいけないんだ。そんな馬鹿な…」

その時体育館から人が飛び出しついた。俊だつた。篠史は由紀も気づいただろうと思い、俊のよつに飛び出した。しかしそれは、俊を追いかけたものではなかつた。

篠史は一目散に寺の門へと駆け込んだ。石段の途中まで駆け登つて、それから杉の木立の中に吼えた。

「ウオオー　……ウワー　……ウオアー—————！」

勝ち誇つた獣のように何度も吼えた。自分でも何がなんだかわからなかつたが、篠史はとてもそうして吼えずにはいられなかつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2700a/>

---

獣のように吼える

2011年1月11日15時31分発行